



# The Star in the West

## 東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER.2-18-12 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

国際会長主題  
アジア会長主題  
東日本区理事主題  
あずさ部部長主題  
東京西クラブ会長主題

“Let Us Walk in the Light-Together” 「ともに、光の中を歩もう」  
“Respect Y's Movement” 「ワイズ運動を尊重しよう」  
「広げよう ワイズの仲間」  
「継続は力なり・一歩でも前に・そしてあがこう」  
「休まず たのしく 元気よく」

2017年10月号

NO 494

また、キリストの平和があなたがたの心を支配するようにしなさい。この平和にあずからせるために、あなたがたは招かれて一つの体とされたのです。いつも感謝していなさい。

コロサイ信徒への手紙3章15節

### 卒業、定年のないワイズメンズクラブ 吉田 明弘

多くの団体や組織には卒業や定年があります。ワイズメンズクラブでは、本人の意思や事情以外で退会することはありません。それが、ワイズの良さであり、難しさでもあります。

毎年、東日本区のクラブメンバーの平均年齢が発表されていますが、新会員の年齢がデータとして整理されているのでしょうか。

明らかに、年齢は20年前よりも高くなっていると思います。しかしその人たちがクラブ活動の推進役として活躍されています。

かつては、若くして入会し、クラブ活動の中で自分を磨いてさまざまな責任を持ち、やがて若い人を見守るようになり、ワイズメンの歌を葬送曲としてこの世を去っていくワイズ人生を理想とする人がいました。

今も、日本の中でメンバー数の多く活発なクラブは、「自己研

鑽」を旗印にした若いメンバーが多いクラブと言われています。仕事にもクラブにもやりがいを感じる人たちで、ここには「クラブ理論」があります。

一方、前述のように現役を引退してから、入会する人も多くおられます。社会との接点、生活の充実、社会への恩返し、仲間づくり、経験を生かすなど、さまざまな動機がありましよう。3年でも5年でも、もっと短くても、クラブに属して有意義な時間を過ごし、そして堂々と去っていき、その後もクラブを見守っていける、そんな「もうひとつのクラブ理論」が求められるのではないのでしょうか。

今、クラブに参加していることが嬉しくて仕方がない、充実感もある、そのことを誰かにしゃべりたい、それが「EMC」の根底にあるものだろうと思います。

### 東高根森林公園・長尾の里 WHOウォーキングのご案内

多摩丘陵の里の秋を満喫しましょう。

期 日：10月28日(第4土曜日)

コース：小田急線・登戸駅<南武線>―久地駅―緑ヶ丘霊園長尾口―東高根森林公園(北口―古代植物園・古代芝生広場・シラカシ林観察路―湿生植物園)―東名高根橋―(等覚院)―五所塚―長尾寺―妙楽寺―長尾橋バス停―<バス>―小田急線・南武線・登戸駅

集 合：小田急線・登戸駅 改札前・券売機脇 9:40

解 散：長尾バス停・長尾橋バス停 14:30

携行品：弁当・飲料(かならず)、敷物、雨具、名札

参加費：300円。交通費は個人負担)、初参加の方は別に名札代として200円

#### クラブ役員

会 長 本川 悦子  
副 会 長 石井 元子  
書 記 篠原 文恵  
会 計 村野 絢子  
担当主事 宮崎 純

9月の記録		ニコニコ	5,951円
在籍者数 16人 (内功労会員) 1人	メネット 1人	クラブファンド	446円
出席者数 11人	コメント 0人	ファンド残高	177,646円
メーカーシップ 2人	ビジター 1人	ホテ校ファンド	7,000円
出席率 87%	ゲスト 0人	ホテ校残高	29,282円
前月修正 -	出席者合計 13人	WHO参加者	31人

## 10月例会のご案内

## 今月の強調テーマ： EMC

今、上野の森は「史上最大の運慶展」で賑わい、11月は、ロダン没後100年ということで、彫刻に関心が集まっています。私たちは、小学生の時、彫刻刀を持ち、粘土をこねました。でも今は、彫刻を平面で見るが多くなっています。

立体の彫刻を、どう見るのか、質問を含めて、女子美術大学名誉教授・津田裕子先生から、うかがいます。

日時：10月19日(木) 18:45~21:00

会場：「あんさんぶる荻窪」5F 第2会議室

(杉並区荻窪5-15-13 TEL/03-3398-3191)

会費：1,500円(ゲスト・ビジター・メネット)

担当：A班(高嶋、竹内、鳥越、吉田)

## HAPPY BIRTHDAY

18日 竹内 祐子

開会点鐘  
ワイズソング  
聖書朗読・感謝  
挨拶・ゲスト&ビジター紹介  
会食

## 卓話 「彫刻を見る」

女子美術大学立体アート科名誉教授  
津田 裕子さん

ハッピーバースデー

諸報告

YMCA 報告

ニコニコ献金

閉会点鐘

受付 高嶋美知子  
司会 鳥越 成代  
会長 本川 悦子  
一 同  
竹内 隆  
会 長

会 長  
会 長 他  
担当主事・宮崎 純  
一 同  
会 長

## — 9月第2例会(事務会) —

日時：9月28日(木)

18:20~ 部会準備委員会

19:00~20:30 第2例会

場所：阿佐谷産業商工会館 B1

出席者：石井、大野、神谷、篠原、高嶋、鳥越、村野、吉田、太田厚三郎さん(DBC・神戸西)

仕事で上京中の DBC・神戸西クラブの太田厚三郎さんに第2例会の様子を見ていただき、阪神大震災後の事情などをお聞きした。会の終了後には全員で簡単な食事会で交流し、来年の西日本区大会へのお誘いをいただいた。

<報告事項>

①9月のデータを確認した。

②9月次会計報告を承認した。

③功労会員・庄野久男さんの近況が吉田さんから報告された。

## ▲11月例会

日時：11月16日(木)

18:45~21:00

場所：あんさんぶる荻窪 5F

卓話：功刀 弘さん(精神科医・甲府21)

担当：B班(石井、神谷、河原崎、宮崎)

## ▲11月第2例会

19:15~21:00

場所：あんさんぶる荻窪 1F

▲12月例会は、クリスマス例会として、C班が企画する。

<協議事項・報告事項>

①あずさ部会の準備状況が神谷実行委員長から報告された。予算見直し案で実行し、不足が生じた場合は、11月第2例会に諮ることにした。

当日の会終了後の「神楽坂ぶらり散歩」は吉田さんが資料を提供する。

②WHOの会計監査報告書を高嶋美知子さん、藤江喜美子さんから受領した。

③メンバー増強についてのアンケートは、12人から回収された。これを材料にして、クラブ内で話し合いの時間を設けたいと本川会長からの提案が伝えられた。

④例会に参加を呼び掛けるゲストをクラブとしてリストアップすることが提案された。

⑤IBC・台北セントラルクラブのオースチン・リンさんが11月に来日するとの連絡が神谷さんにあった。先方のスケジュールが合えば、交流会をもつ。

(書記・篠原文恵)

## 卓話者紹介

## 津田 裕子(つだ・ひろこ)さん

二科会評議員、美術家連盟委員、女子美術大学名誉教授、1969年女子美術短期大学卒業。1991~92年、女子美術大学海外研究員として渡伊、杉並区在住。

【受賞歴】：二科展(ローマ賞、文部科学大臣賞他)、安田美術財団奨励賞展(新作優秀賞、記念展特別賞他)、高村光太郎大賞展(箱根彫刻の森美術館賞)

【個展】ギャラリーユニバース(上野の森美術館他)

【収蔵・設置】：国立国会図書館中庭、外務省、東京証券取引所、遠藤周作記念館、大村美術館、吉井淳二美術館、東京都、名古屋市、マニラ市、他各都市美術館等。2016年、大村智博士像(菫崎市)設置。

人間とは何かを問い続け、彫刻で表現してきました。近作は宇宙に思いを馳せ、結合しては分離する「すべては宇宙のかけら」と題した作品を発表しています。



9月例会卓話者、東京 YMCA 星野太郎副総主事と YMCA 新ロゴマーク

DBC神戸クラブの太田厚三郎さん（第2例会にて）

## YMCAのブランディング ー 9月例会報告ー

9月例会は、いよいよ YMCA のブランディングプロジェクトの一つ、ロゴとブランドコンセプトの説明でした。星野太郎東京 YMCA 副総主事が全国規模で調査した結果、YMCA の認知度、イメージ共に低く、今後の存続を考えた上での改革準備を約 2 年前から行ってきた経過を説明されました。

持参された新パンフレットは、カラフルなレイアウトで「ポジティブネット」に向けて分かりやすく説明されています。ただ、キリスト教系団体の色合いは薄れ、出席者からは違和感を感じるなどの意見もありましたが、一足先に改革を進めたアメリカでは、それを契機に会員も増え始め、寄付も上向いているとの報告は嬉しく思いました。

普段の不勉強を反省しつつ、自分がどう関わっていくかを考える良い機会となりました。

各報告のあと、村野さんが心を込めて焼いて下さったバースデーケーキをメンバーにお渡ししてお祝いをしました。これは本川会長の発案でしたが、来年 6 月までの期限付きの当クラブ例会の特色となりました。

（篠原文恵）

出席者：＜メンバー＞石井、大野、神谷、河原崎、篠原、高嶋、竹内、鳥越、宮崎、村野、吉田、＜メネット＞神谷、＜ビジター＞星野太

郎（卓話・東京 YMCA 副総主事）、＜MU＞神崎（YMCA 業務）、本川（東京たんぼぼ 8 月例会）

## 大野あずさ部長クラブ訪問 東京たんぼぼクラブ

9月12日（火）、東京 YMCA 山手コミュニティセンターで開催された、東京たんぼぼクラブの例会へ私は初めて参加させていただきました。小原史奈子会長の開会点鐘で始まり、ビジターの各クラブメンバー計 9 人の紹介がありました。

現在の東京たんぼぼクラブは例会に出席できる方が 4 人と少ないのに、いつも澁刺と幅広くご活躍していらっしゃる様子を拝見し、素晴らしいなとは思っていましたが、他クラブからいつも応援があるということ伺い、Y's の絆を感じさせられました。納得と同時に、所属クラブのことで精一杯な自分を見つめなおすことになりました。

大野部長の挨拶の後、最後にオークションが待っていました。食品、お酒、アクセサリ等、1 品ずつ紹介され、皆で競り落としましたが、お酒はかなり高額でした。

私は利尻昆布をゲットしました。半年はもちそうです。

最後に楽しい歌を歌い、閉会となりました。学ぶことの多い例会でした。

当クラブからの出席者は大野、神谷、篠原、鳥越、本川でした。

（鳥越成代）

## DBC・神戸西の太田さん 9月第2例会に

DBC 神戸西クラブの太田厚三郎さんが、所用で上京され 9 月 28 日夜、阿佐谷商工会館で行った第 2 例会（事務会）に出席されました。

協議の間は、メモを取っておりましたが、終わってから、クラブや六甲部の状況を話されました。来年度は 2 度目の六甲部長を務められるとのことで、区の事情も詳しくご存知、とりわけ、来年 6 月 9 日・10 日、神戸で開かれる西日本区大会の魅力をアピールされ、「これじゃ、行かんわけにいかんやろ」という気持ちにさせられました。

食事を阿佐谷パール街で一緒にしました。充実した DBC 交流でした。

（吉田明弘）

## 神楽坂のあずさ部会 ぶらり散歩もおすすめ

10月21日に迫ったあずさ部会の準備、参加申し込みが順調です。会終了後の「神楽坂」にも期待される方も多いでしょう。

趣のある石畳の小路には黒堀の料亭が、中央通りには、漱石や白秋が愛した店、個性的な店があります。由緒ある神社、城址も廻れます。残念ながら、団体での散歩は、場所柄、粋ではありません。グループで楽しんでいただきます。町の案内図は、100 枚以上用意しました。





東京YMCA・チャリティーランのスタートを待つ第1走者

## ー9月ウォーキング報告ー

9月23日、WHOの深川歩きの参加者は、31人でした。

この日のコースには、東京YMCAが主催するインターナショナル・チャリティーラン観戦を組み込みました。これには、障がい児支援のこの催しの理解を広げたいという狙いがありました。

東京・下町の深川の玄関口、門前仲町駅を出発し、富岡八幡宮などを巡り、11時に会場の木場公園に到着。ランナー、ボランティア、応援する人が行き来する中で昼食をとりました。

競技は、12時過ぎにスタート。陸上選手のように猛スピードの人、愛嬌を振りまきながらの人、伴走者と走る障がい者、コスチュームに工夫をこらしたチーム、さまざまでした。応援も幼児からわれわれまで。一生懸命走る姿に、思わず「ガンバレ!」と声をかけます。第4走者へのバトンタッチが終わるあたりで、観戦を終えました。

その後、江戸深川資料館、霊巖寺を経て、深川の発祥の地とされる森下で解散しました

ワイズ関係の参加は、関喜一郎(石巻広域)、樋口順英(東京グリーン)、石井、吉田(東京西)でした。(吉田明弘)

## WHO参加者の感想

チャリティーランを一部観戦し

たWHO参加者の感想です。

「たまには良い。地域に密着できる」「障がい者にとっても良いことです。続けてください」「各チームとも仲良く助け合い素晴らしいです」「楽しい時間をありがとう」「初めて見ました。楽しかったです」「頑張っていて、応援するのも楽しかった」「ちょっと(自分も)走ってる気になりました」「初めて見ました。感動しました」「元気になった。ありがとう」「パンダさんが参加してよかった」「久しぶりの運動会で楽しかった」「多くの人に参加しているのに感銘を受けた」「大変良かった」「長い歴史のあることに感銘した」「思いがけず応援に熱中して楽しかった」「楽しい時間をありがとう」「頑張っていて、応援するのが楽しかったです」「YMCAの行事もいろいろあって大変だと思いました」などなど。

一方、「少し長いなあと感じた」「ただ立って観ている時間が長く感じた」「なかなか始まらず、間延びした感じ」などの指摘も的を得たものでした。

言い訳すると、計画では野外ステージ前に座って、トークやアトラクションで、会の趣旨や参加者を理解し、楽しみながらの食事を考えていましたが、予想以上の混みように思うようにならず、時間を持て余したことによるものでした。

## YMCA Today

◇2017年8月上旬以降、南アジアで大規模な洪水が発生し、バングラデシュ国内でも大きな被害が生じ、多くの命が犠牲になり、衛生状況の悪化から病気になる人も増えています。東京YMCAからは緊急災害支援として、国際協力募金から1,000ドルを現地YMCAへ送金いたしました。

◇9月16日(土)の「国際協力一斉街頭募金」では、ワイズ、コミュニティセンター、学校、幼稚園をはじめ各拠点から集まったボランティア総勢184人声を合わせて支援を呼びかけました。当日寄せられた募金総額は215,717円でした。バングラデシュYMCAの働くこどもたちの学校(NFFC)をはじめ、今夏の大洪水で被災したバングラデシュのこどもたちのために用います。ありがとうございました。

◇障がいのある子どもたちを支援する「東京YMCAインターナショナル・チャリティーラン」が9月23日(土・祝)、都立木場公園で開催されました。約300人のランナーが力走し、レース前の「こどもラン」には幼児小学生450人とその保護者あわせて700人が参加しました。WHOの皆様も深川ウォーキングの途中で応援に来て頂きました。ボランティア・スタッフ約170人を含め1,500人を越すにぎやかな大会となりました。

(担当主事 宮崎 純)

## ガガのピッチコート作成 東京Y会員親睦・協議会

11月6日(土)東京YMCA会員親睦・協議会が、「ソシアス」として、江東YMCA幼稚園で開かれます。この日は、イスラエルのドッチボール「ガガ」のピッチコートを参加者で作成し、体験します。

BBQも楽しめます。10:00~15:00、参加費1,500円。

## ☆☆ インタビュー ☆☆ 清水 弘一さんに聴く

\* \* \*

清水弘一さん（石巻広域）は、東日本区における新クラブづくりの名人の一人です。（吉田明弘）



—2019年のアジア太平洋地域大会が、仙台で開催されることになりましたね。

「田中博之さん（東京多摩みなみ）が地域会長としての大会で『アジアのワイズに被災地の復興状況を見てもらえる絶好の機会だから』と勧められて、皆で引き受けることになりました」

—喜ばしいことですが、清水さんが、また無理をしそうで心配です。この10年間働き詰めですよ。2008年もりおかクラブ設立、2009-10年東日本区理事、2010年横浜国際大会プログラム委員長、2010-11年区組織検討委員長、2011年東日本大震災支援対策本部委員、2011年仙台広瀬川クラブ国際加盟、2016年石巻広域クラブ国際加盟、2000年区文献組織委員長、2000-03年東日本区定款検討委員、同改定委員、仙台YMCA常議員会議長、日本YMCA同盟委員・常議員など。

「いや、今回は若手に任せ、アドバイザーに徹するよう言われています。でも、今までの大会での経験が、お役に立つことがあれば喜んでお手伝いします」

—清水さんは、生粋の仙台っ子ではないんですか。

「東京・文京区本郷の生まれです。東京空襲がひどくなり、親父が勤めていた軍需関連工場が宮城県に移転するというので、一家で宮城に疎開しました。そのまま

疎開っ子として育ちました」

—小さい頃から「こーちゃん」と呼ばれましたか。

「ええ、こどもの頃から呼ばれていたと思います。7人兄弟姉妹の長男で小さい頃は可愛がられました。体が弱く、中学生になりテニスや体操をやるようになってから丈夫になりました」

—会社は大手ゼネコンでした。

「高度成長期の時代で、1960年、東京での新人研修を終えて仙台支店の現場に配属になりました。その後、近県の建築現場を経験、10年振りに仙台に戻ってからは都市開発や営業部門を担当し、全国を飛び回りました。そのことが、全国のワイズを知るきっかけにもなりました。一般ビル、ホテル、マンション、工場、公共建築、再開発ビルなど貴重な経験でした」

—ワイズ、YMCAの接点は。

「仙台に転勤後の1981年、高校時代に親代わりになっていただいたクリスチャン夫婦に紹介されワイズ、YMCAを知りました」

—ワイズ入会の決め手は、

「ある日、仙台青葉城クラブのメンバー宅での移動例会に招待され、家族的な会の雰囲気魅せられ、決断しました。仙台青葉城クラブのチャーターの翌年1980年の入会です」

—メネットみつ子さんのことを。

「亡くなってから満17年になります。秋田の浄土宗の寺の娘でした。私が入会した当初はワイズやYMCAの活動にはあまり関心がありませんでしたが、一人息子が大学の3年の時、YMCA主催のタイ農村ワークキャンプに無理やり参加させました。帰国して息子の変わりようを見るにつけ、YMCAやワイズの活動にも積極的にになりました」

—2007年仙台広瀬川クラブ、2011年もりおかクラブ、2016年石巻広域クラブを作られました。新クラブづくりのきっかけをど

うやって見つけるのですか。

「物事を成すには、人・物・金・時・運が必要と言われますが、どのクラブも地域にとって必要とされ、成す方向性が見つかり、関係者の心が一つになったということでしょうね」

—大震災では苦勞されました。

「一言では言えません。震災直後のことはあまりにもショックが大きくて思い出すことも嫌です。ワイズやYMCAの会員であったことで皆さんの励ましを受け、今まで6年半続けて来られたのでしょね」

—「受けた多くの支援や励ましに対して私たちが出来ることは、新しいクラブを作ること」という清水さんの発言には感激しました。

「クラブ作りのきっかけはどこにもあります。震災直後から宮古、仙台、石巻地域には、ワイズやYMCAの関係者だけでも6年間で約5万人ものボランティアが駆けつけてくれました。そこには地元の方とのいろんな交流があり、目に見えない貴重な投資がいっぱいあったはずですよ。私たち石巻広域クラブには、今後それを生かす義務があると思います」

—ワイズに入って影響を受けたことは。

「やはり対等の人間関係が基本にあるということでしょうね。会社の上下関係とは違い、自分になりものを持っている方がたくさんおられる、こんな環境に恵まれたことへの幸せを感じています」

—ワイズ以外でやりたいことは。

「体の動ける内に、できれば英語圏の静かなところで1年間位、のんびり過ごしたいですね」

—2019年のアジア太平洋地域大会に対する思いはいかがですか。

「私自身、ワイズでの最後の大きなイベントになるでしょうね。ワイズの将来のためにも、脇役の1人として成功への道づくりに寄与できればと思っています」

—ありがとうございました。

## 4) 高齢者の誤嚥予防

食事にむせる事は高齢者にとっては日常茶飯事である。新聞の死亡欄に「誤嚥性肺炎」が散見され、老衰、がんの末期、呼吸機能障害、認知症などが想像される。最近、脳梗塞でリハビリ中の70歳代後期の患者さんがお花見弁当のこんにやくを喉に詰まらせて亡くなったとの報告があった。普段から誤嚥予防に気をつけ、餅やこんにやく等は口にさせない心掛けが大切。

「オーラルディアドコキネシス」(口の繰り返し運動)と言う手法がある。呑み込むための「嚥

下機能」が落ちていないかをチェック出来るという。

「ば」は唇、「た」は舌の前の方、「か」は舌の後ろの方をうまく動かすことで発音している。唇を閉じて食べ物を口の中に収め、舌でどの後ろの方へと運んでいく機能とかかわっている。

厚生省の研究チームが、ディアドコのスコアと嚥下機能との関連を調べ、のみ込む力が落ちて誤嚥のリスクが高い人たちは、そうでない人たちに比べてスコアが低かった。スコアは「ば」と「た」は5秒間に25回、「か」は24回、「ばたか」は8回言えればほ

ぼOK、これらを下回れば嚥下機能低下として、きたえる体操をすすめている。

口を動かすことを意識しながら、はっきりと発音する。ディアドコの回数が少ない人むけに、①あお向けで頭を持ち上げ足の指先を見る姿勢を30秒続ける「頭上げ体操」を1日3回、②舌を前に出した状態で唇を閉じ、つばをのみ込む「ベロ出しゴクン体操」を1日5回をすすめている。(朝日新聞)

その他、誤嚥予防のあご・唇・舌・頬等の嚥下体操等が発表されている。

## シゲとあーやの子育て③

村野 絢子

長男が生まれる前に大好きな義母が他界し、義父と義弟2人・義妹と私どもの大家族の暮らしとなり、食事、洗濯と育児で多忙を極めた。母乳で育て、おしめは正方形の1枚布をたたむ洋式スタイル。帰宅したシゲは子どものお風呂担当で一緒に入り、洗った後私がタオルで受け取った。

長男が生まれて3か月のころ、公園近くのアパート2階の友人宅を訪ね、お借りしたものをお返

ししようとベルを押して待っているわずかの間に、1歳半の長女Iが鉄製の柵の間から(後に柵の間に2本増やされた)コンクリートの床に頭から落ちた。

うめき声の娘を抱いて近くの病院に駆け込むと、医師はすぐ救急車を呼び同乗して下さって東京医大病院に向かった。頭蓋骨が柔らかすぎず、固まっていず、石ころが1つも無かったことも幸いして、弾力のある成長期の頭蓋骨に守られて脳にダメージは無く、入院中に言葉が増えていくのを喜んだ。子どもと一緒になければ家には帰らないと決めてい

た私だったが、神様が助けてくださった。危なっかしい親への神様からの大きな試練であった。

イースターの礼拝に、手作りのカルダン風の洋服を着せ、傷跡を隠す白い帽子姿で出席し、祝福を受けた。

約2カ月、幼い長男を千葉に住む私の両親に預け、育ててもらった。また当時、会社勤め・学校教師・学生だったシゲの弟妹たちが食事担当の居ない中、よく耐えてくれた。全て、主の導きによると感謝している。

## 庄野久男さんの近況

9月21日の例会、99歳の功労会員・庄野久男さんは、お誕生日でしたが、お休みでした。3日後の24日、まったく全く思いがけず、娘さんの本多久美子さんにお会いしました。

本川悦子会長が送ったバースデーカードと、村野絢子さんが自宅にお届けした手作りケーキを大変喜ばれたそうです。皆様によるしくとのことでした。

その後、2度ほど電話し、久美

子さんとお話ししました。庄野さんは、これまで多くの方に支えられたことを感謝しつつ、この世の務めから解き放たれて、神様への信仰と「世界平和」をひたすら祈りつつ過ごされておられるそうです。でもアマチュア無線は、発信はされていませんが、免許は、5年間延長されたそうです。庄野さんも電話口に出てくださいましたが、声も大きく、受け答えもしっかりされて、こちらが圧倒されるほどでした。(吉田明弘)

## 編集後記

11月例会の卓話は、精神科医の功刀弘さん(甲府21クラブ)にお願いしています。

7月の東京八王子クラブの例会は、功刀さんが卓話者でした。例会が終わると、出席していた本川悦子会長は、積極果敢。「ウチのクラブの例会にも」と、お願いしました。今月の例会当日、功刀さんは、仕事を終え、17時05分甲府発、荻窪駅18時36分、で来てくださいます。(AY)